

# 4月11日の余震でいわき市に出現した地表地震断層(第5報)

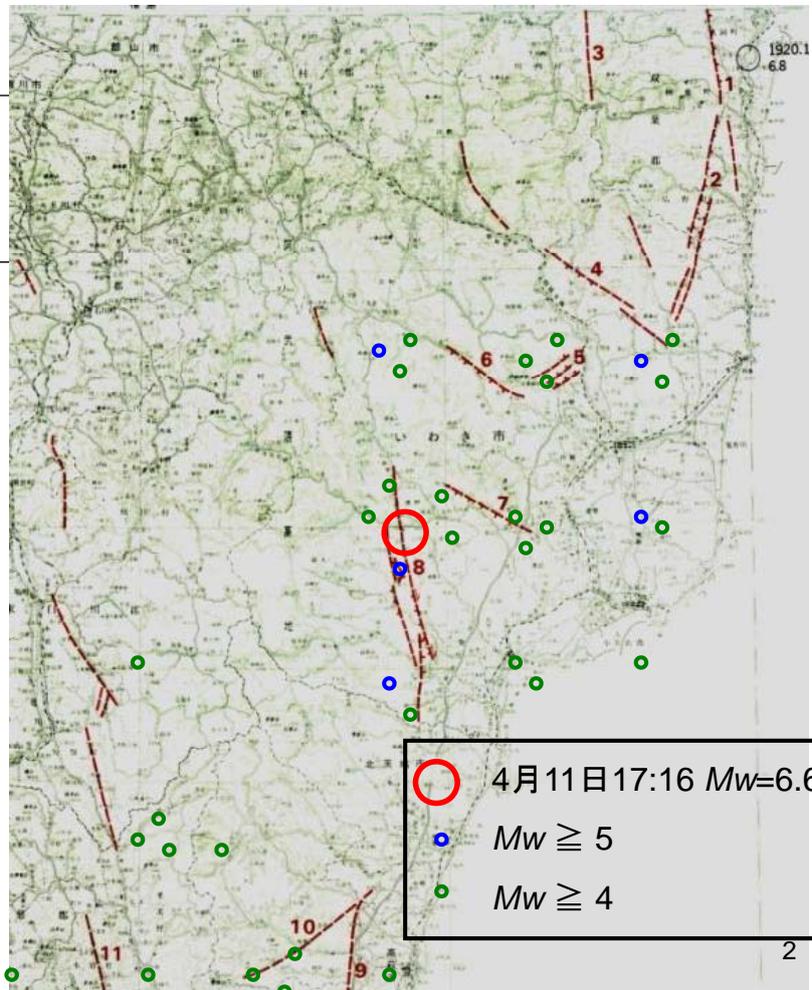
現地調査

5月10日(火) 地質・地盤研究グループ地質チーム 主任研究員 品川俊介

同 交流研究員 江口貴弘

1

北茨城市～いわき市  
周辺の活断層と余震  
の分布



出典

活断層研究会編(1991)新編日本の活断層—分布図と資料, 東京大学出版会

震源情報は防災科学技術研究所Hi-netのAQUAシステム震源情報(2011.4.13現在)によった。

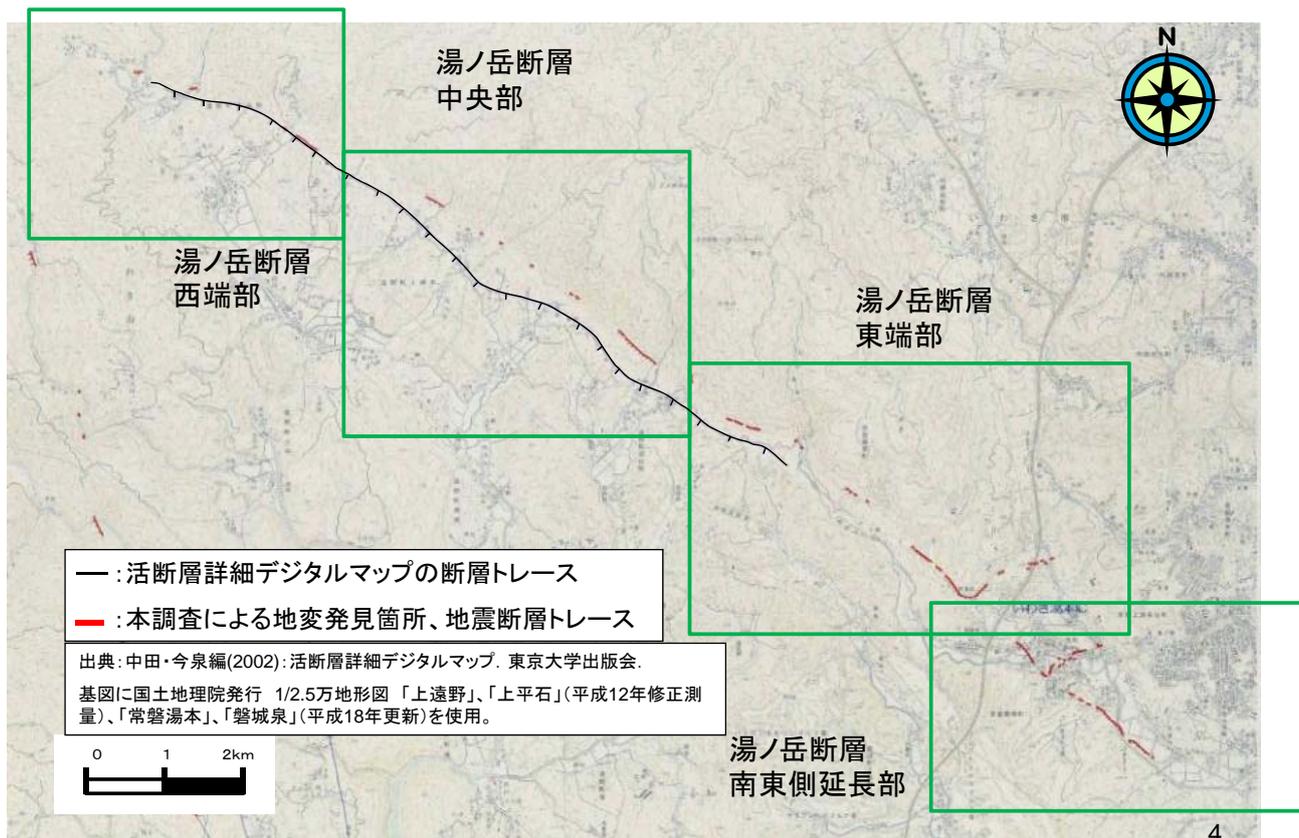
2

# 既存文献に表示されている湯ノ岳断層



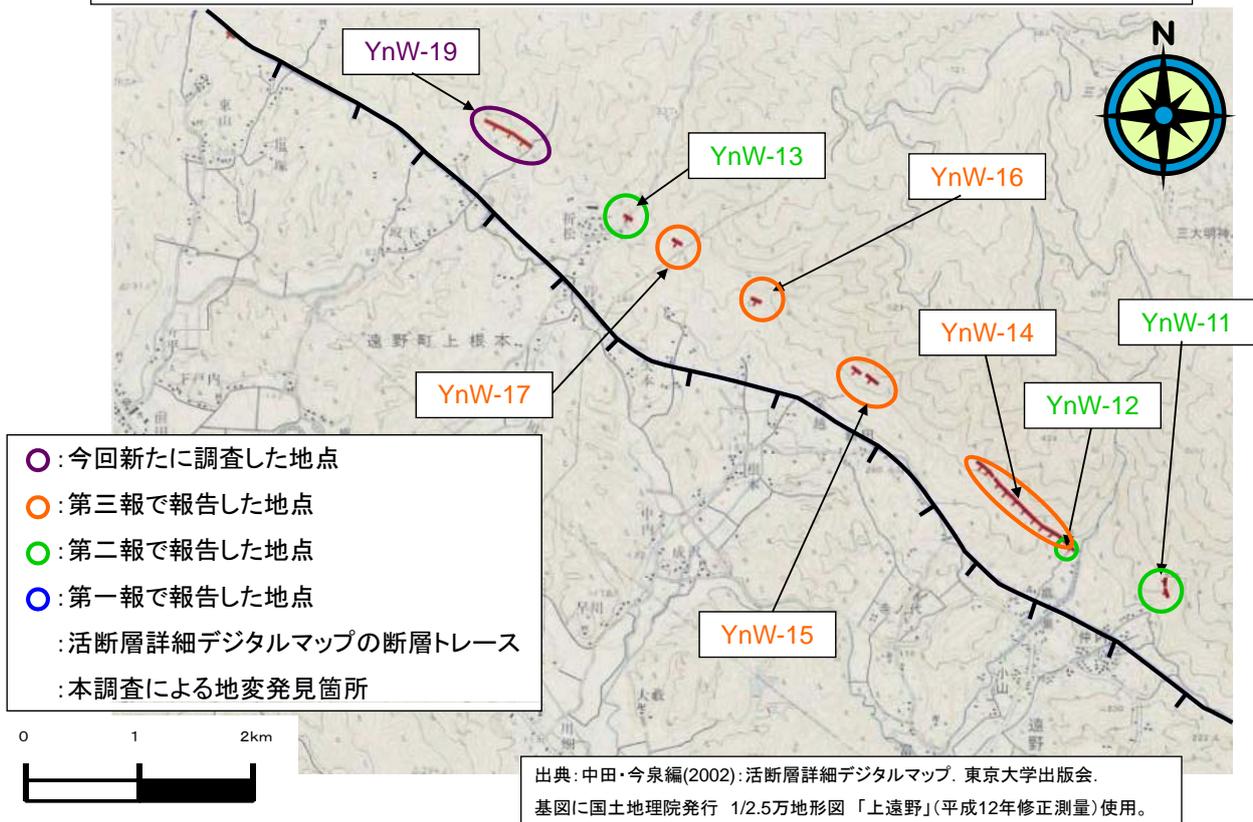
3

# 湯ノ岳断層の地表地震断層トレースと現地調査地点



4

# 湯ノ岳断層中央部の地表地震断層トレースと現地調査地点



## 湯ノ岳断層中央部の地表地震断層

### • YnW-19地点

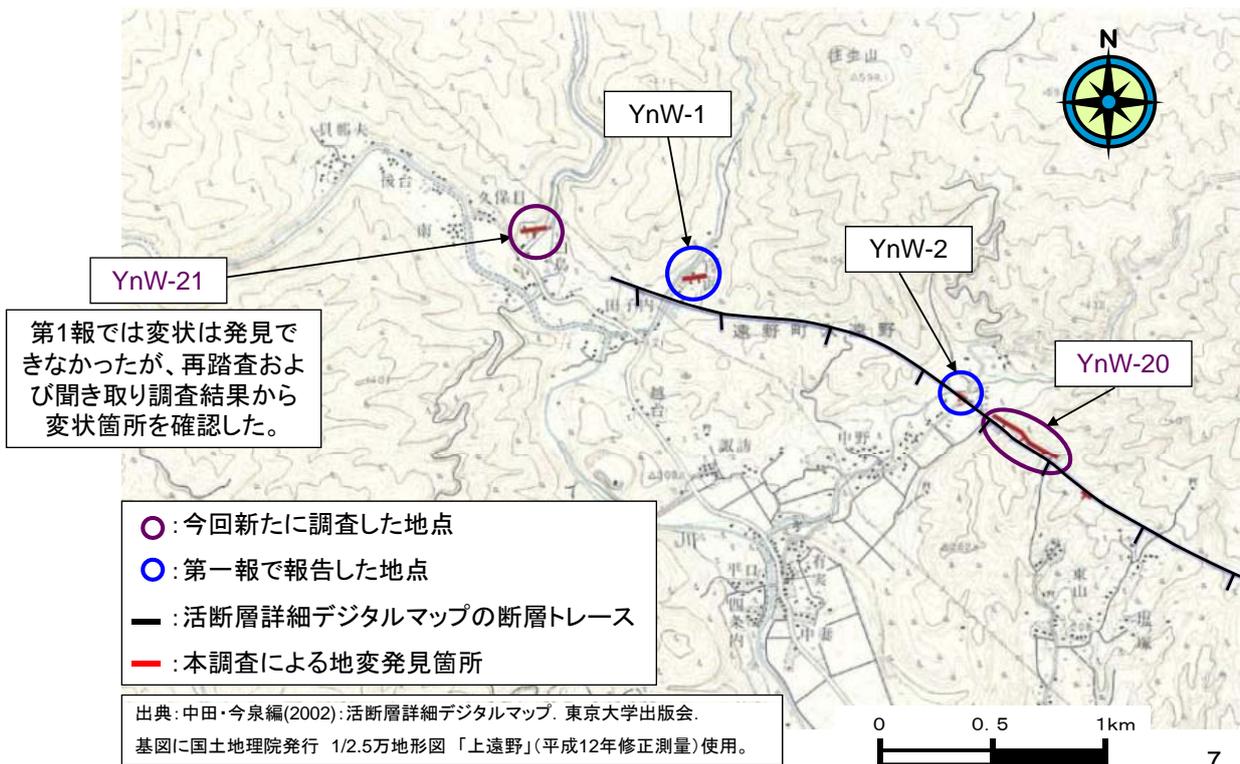


北を望む。YnW-19地点の西端部付近。  
走向N35W、垂直変位量は50cm程度。



北西を望む。YnW-19地点の東端部付近  
走向N45W、垂直変位量は5cm程度、開口が30cm程度。  
亀裂は3条存在し、南西側にとう曲しているように見える。

# 湯ノ岳断層西端部の地変と現地調査地点



# 湯ノ岳断層西端部の地表地震断層

## • YnW-20地点



北西を望む。YnW-20地点の東端部付近。  
 林道内に連続的な亀裂が発生しており、斜面方向と斜向している。  
 走向はN45W。垂直変位20cm程度。



南東を望む。YnW-20地点の中央部よりやや東側。  
 写真中央の林道内で亀裂が連続していることが確認される。  
 走向はN45W。亀裂部の垂直変位はほとんどないが、樹木の傾きからとう曲状の変形が推定される。



南東を望む。YnW-20地点の西側。  
 走向はN55W。垂直変位は5cm程度。

## 湯ノ岳断層西端部の地表地震断層、地変

### ● YnW-21地点



YnW-21地点の東端付近。道路面を上から撮影。写真上側が北側。

擁壁にわずかな左横ずれの亀裂が見られる。

道路に変状の連続は見られない。



YnW-21地点の西端付近。西を望む

写真中央の草の生えている付近に連続的な1cm程度の段差が確認される。

地元住民の情報では、4月11日の地震後に段差の発生が確認された。

9

## まとめ

湯ノ岳断層中央部および西端部において地表変位の追跡調査を実施した。

1. 湯ノ岳断層中央部については、冷水地区の山側において段差を伴う地盤変状を確認した。これらは一連の地表地震断層の延長と考えられる。
2. 湯ノ岳断層西端部では、東山地区の西側の沢から天王川周辺に向かう段差を伴う地盤変状の連続を確認した。これらも一連の地表地震断層の延長と考えられる。
3. 湯ノ岳断層西端部の白鳥地区において、道路擁壁の変状と南側下がりの段差の連続を確認した。これらも一連の地表地震断層の延長と考えられる。